

第7回信濃美術館整備委員会 議事録

○開催日時 令和元年7月22日(月) 13:30～15:10

○場所 長野県庁3階 特別会議室

○出席者

委員 竹内委員長、荻原委員、小坂委員、佐野委員、谷委員、野原委員、橋本委員、樋口委員、福島委員、松本委員、山浦委員、渡辺委員(欠席:北村委員、小林委員、近藤委員、中平委員)

長野県 増田県民文化部長、高見沢文化政策課長、日向信濃美術館整備室長、塩入施設課長、細野信濃美術館整備室課長補佐

1 開会

(細野信濃美術館整備室課長補佐)

ただいまから、第7回信濃美術館整備委員会を開催いたします。

私は、本日の進行を務めます信濃美術館整備室の細野です。どうぞよろしく願います。

はじめに、増田県民文化部長よりご挨拶申し上げます。

2 あいさつ

(増田県民文化部長)

本日は3月18日以来の第7回信濃美術館整備委員会を開催したところ、お忙しい中ご参集いただき御礼申し上げます。

会議に先立ちまして、既に皆様ご案内のとおり、去る6月3日、本江邦夫委員がご逝去されました。本江委員には、平成29年2月開催の第1回から委員を務めていただいております。また、長野県の芸術監督団としても、非常にお世話になった方でありまして、この急な訃報に接しまして、あらためてお悔やみを申し上げますとともに、これまでのご尽力に感謝を申し上げる次第でございます。

さて、前回の委員会開催以降の状況でございますが、4月19日に長野市の城山公園整備工事の起工式と合同で、信濃美術館本館建設工事の起工式を開催いたしました。現場では建設工事が本格化しているところでございます。また、あわせてこの10月には東山魁夷館がリニューアルオープンをする予定でございます。ご報告申し上げますとともに、委員の皆様にはこれまでの経緯にあらためて御礼申し上げます。

本日の委員会の議題といたしましては、一つには寄付募集の取組について、それから運営費についての資料が出てまいりますけれども、今後の運営について、ご意見を頂戴できればと考えているところでございます。

また、あわせて、東山魁夷館のリニューアルオープン、あるいは美術館本体の建

設状況につきまして、ご報告をさせていただきたいと存じます。

どうぞそれぞれの分野から、またご専門の立場から、ご意見、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。あいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

3 新委員の紹介

(細野課長補佐)

それでは、新委員をご紹介します。

長野県美術教育研究会研究推進委員の中平紀子さんが本日から出席の予定でしたが、お勤め先の屋代中学校に急用があり、本日欠席となりました。

去る6月3日に本江邦夫委員がご逝去され、本日現在の委員会の構成はお手元の委員名簿のとおりでございます。

なお、本日は、北村委員、小林委員、近藤委員が都合により欠席されております。

会議は、設置要綱により、委員長に議長をお務めいただくことになっております。以降の進行を竹内委員長にお願いしたいと存じます。

4 議 題

(1) 信濃美術館整備に向けた寄付募集の取組

(竹内委員長)

本日はお忙しいところご出席をいただきまして、ありがとうございます。クールビズですので、上着は脱いでいただき会議にご参加いただきたいと思います。

それでは本日用意されている議題は4つありますが、(1)信濃美術館整備に向けた寄付募集の取組について、県から説明をお願いします。

(日向信濃美術館整備室長)

資料1により説明

- ・ 前回ご意見をいただいた県の負担と寄付の関係について説明
- ・ 個人向けの寄付募集として、「新美術館 みんなのアートプロジェクト」の募集を8月2日に開始
- ・ 法人向けの寄付募集は秋頃から個別に企業に協力をお願いする予定

(竹内委員長)

大きな内容でありましたが、ご意見、ご質問があればお願いします。

(山浦委員)

企業向けの寄付は1回限りという理解でよろしいでしょうか。それとも毎年集めるということでしょうか。

(日向室長)

毎年ではなく、最初のイニシャルの部分をお願いするものです。開館後のランニングについては、個人を対象としたクラウドファンディングは継続して取り組んでいきたいと思っておりますが、企業や団体の寄付について他館の状況をお聞きすると、大変難しいと聞いており、これについてはもう少し検討させていただきたいと思っております。

(山浦委員)

同じ会社が毎年 500 万円というのは無理だと思います。開館の時だけということであれば、努力していただければと思います。

(竹内委員長)

これは大事なことで、企業にとって大きな金額なので、オープニングに合せた一度限りの寄付ということによろしいですね。

(樋口委員)

企業向けの寄付は、県内の企業を想定しているのでしょうか、県外の大手も想定していますか。

(日向室長)

県内に限定しているわけではございません。県外企業については企業版のふるさと納税制度も考えており、希望する企業には活用してもらいたいと思っております。企業版ふるさと納税のメリットを受けずに、県内企業と同様の寄付メニューをということであれば、通常の寄付というように、どちらかに限定せず取り組んでいきたいと考えています。

(樋口委員)

県外であれば、企業版ふるさと納税を積極的に活用してもらいたいのが、現実的だと思います。個人については、ふるさと納税は官製のクラウドファンディングなので、積極的に使ってもらいたいですし、ふるさと納税に組み込めば運営費ということも含め、毎年行うことができますが、そうでないと厳しいと思います。

(日向室長)

そういった制度を活用しながら取り組んでいきたいと思っております。

(山浦委員)

個人については、ファンクラブという制度もありますので、イベントの案内をすとか、年会費をどうするのかということもありますが、やはりファンづくりを広

げていくことが重要だと思います。クラウドファンディングは1回限りのものなので、いかに個人の県民を巻き込んでいくかということを考えなければいけないのではないのでしょうか。

(日向室長)

かつて、信濃美術館にも「友の会」があり、新しい美術館になることにより、友の会のようなボランティア的なものにぜひ参加していただければ、なお発展していくと思いますので、そういった取組も広げていきたいと思っています。

(松本委員)

友の会制度は一時期、多くの美術館がつくり、その後停滞に入ったというか、考え方、募集方法、活動を含め考え直して、再結成したという美術館もあります。信濃美術館も、不活発になってやめた経緯があり、今後はいずれにしても有志を募り、必要なレッスンもしつつ、何十人かのボランティア参加は必要になると考えています。もちろんボランティアと友の会は性格が違うものですが、これまでの経験を活かしながら整理し、美術館の活動に一番近い応援部隊の育成を考えていきたいです。

(竹内委員長)

友の会などのサポートする団体のこれまでの失敗例として、美術館が友の会にいろんな特典を出すとか、入館料が無料になるとか、講演会が無料になるとか、そのうち特典競争に陥ってしまって、友の会は一体何なのかということでした。私は、友の会は美術館をサポートする団体だと思っていますが、今回クラウドファンディングという支援の仕方もあり、その辺は整理する必要があると感じます。国立の美術館もそうですが、今はその曲がり角に来ているのではないかと思います。

(谷委員)

数を増やそうとするとどうしても特典をいっぱいつけたいと考えがちです。ただ、特典を付けるとそれ以外には協力しないというジレンマに陥ります。友の会をどうするか、もう一度考え直したほうがいい時期に来ているのではないのでしょうか。かつて私がいた美術館でも美術館の運営に協力するという意味合いを強くした振興会という組織を最初作りましたが思うほど数が集まらなかったということになりました。友の会を設けるか、設けないかの以前に、美術館にどういう協力をしていただけるか、その辺も信濃美術館なりに考えた方がよいと思います。クラウドファンディングもなかなか集まらなかったりするので、資金協力だけでなく美術館の友の会や協賛会といった体制も見直さないといけないでしょう。

(佐野委員)

多種多様な経費の出所を模索されていることがよく分かります。かなりの事務量でそれに耐えられるだけの人員、県のお手伝いは保障されているのか、その点が心

配されますがいかがでしょうか。

(松本委員)

美術館を運営している文化振興事業団は公益財団法人ではないので寄付をしてもらっても税制上の優遇措置が得られないので、この膨大な仕事は県、すなわち信濃美術館整備室がやっていくことになります。

(佐野委員)

膨大な事務量を信濃美術館整備室で対応できるのでしょうか。

(松本委員)

整備室に全部お任せということではなく、信濃美術館もできることはお互いに協力し合わないことには無理だと思います。

(日向室長)

事務の体制について、クラウドファンディング自体は長野県の場合、県全体を取りまとめているのは税務課です。事務の一部は税務課や税務課が委託している業者が担っていき、業務量がどれ位かははっきりつかめていませんが、勘案しながら進めてまいります。

(佐野委員)

寄付者銘板のデジタルのイメージができません。プレートなら1回限りで終わりになりますが、デジタルの場合、何年間かとか、どういう手法なのか、オープニングの時だけ名前が出るのかとか、イメージが沸きません。少なくとも、維持管理が大変になるのであれば減らした方がよいと思います。

(竹内委員長)

今どんなイメージで考えているのでしょうか。

(日向室長)

プレートは基本的には半永久的に残していくものです。デジタル銘板についてはディスプレイで検索するとそこに自分の名前が出て来る形式を考えていますが、全員を一覧で大きな画面に出すということは難しいです。前の美術館建設時にはいろんな方が協力し、参加した60社の銘板は今まで残してきました。団体や企業だけでなく個人の方もプレートやデジタルで残していきたいと考えています。

(竹内委員長)

プレートは金属に彫り込んだものということで、美術館のどこかで見えるようにするわけですね。

(日向室長)

資料1別紙寄付金の使途の①をご覧ください。タッチアートギャラリーの南側に三角形のラウンジがあります。その廊下側に壁が二か所あり、その壁は1階から3階までつながっています。これをマルチファンクションウォールと呼んでいますが、2階のタッチアートギャラリー側、幅3m高さ3mのところに企業、団体、個人の寄付者を掲示する予定です。

(山浦委員)

銘板で名前を残したいという人がどのくらいいるのか見当がつきません。例えばサイトウキネンでも銘板があり、長野市でも個人の寄付者の名前を灯籠に表示した事例はありますが、自分の名前は見たこともないですし、そもそもどこにあるのかも分からないという状態です。寄付者の名前を出すよりも、寄付者に情報を発信した方がよいと思います。

(佐野委員)

銘板を好む方は世の中にたくさんいて、どこかの会社がクラウドファンディングで銘板を出すと必ず参加される方もいますので、たとえフォントが小さくてもあった方がよいと思います。大学生も自分の名前を残したい、一般の方も自分の名前が残ることがないので、そこに行けば自分の名前があるとか、自分の名前が残ることは世の中にそんなにないので、名前があることからつながっていき形に残っていきます。デジタルよりも銘板の方が簡単かと思いますが、デジタルサイネージのコンテンツもどちらで作るかで金額が大きく違ってきます。500万円で10年間サイネージに出してもらえたら安いと思われるかもしれません。

(日向室長)

本日、図面は用意してございませんが、設計者は1階から3階まで、同じ場所に立ち上がるものを考えています。マルチファンクションウォールには美術館のリーフレットやポスター類を全てここにまとめようと思っています。そこにデジタルサイネージを入れます。1階に二つ設け、一つは美術館の情報発信に使い、もう一つは県内美術館の情報の発信等に使います。そこに協賛企業の情報も流していきたいと考えています。

(佐野委員)

コンテンツの持ち込みということですね。

(日向室長)

そのとおりです。

(荻原委員)

寄付メニューは美術館が開設するまでのことを考えたものですが、この後どう維持していくか、何がしかのご支援をいただける仕組みを今から考えても全く遅くはないです。個人からはクラウドで2千万円を集めるといったときに、集めることが目的なのか、その後、永続的につながっていただくファンをつくっていくことが目的なのか。最初のクラウドファンディングの時に作品を置く、その後は美術館を支えていくメンバーシップで支援していただく形もあると思います。また、法人についても、10年間の広告が500万円ならいいよねと思ってもらえるかもしれませんが、新規参入はやはりあり得ると思いますので、立ち上げの時だけでない寄付メニューの提供を引き続きやっていった方がよいと思います。

個人向けのクラウドファンディングは県全体でやっている一つのメニューと聞いて安心しましたが、資金が集まらなかった場合この作品が作れるのか心配です。そこはきっと何らかの工夫をするのだと思いますが。寄付者が気持ちよく参加していただくため、銘板がいいのか、1個のちょうちんを4人で分け合うイベントのようにやるのか。劇場でよくあるのは椅子に名前を付けるというもの。新しい美術館ならではのことが考えられるとよいと思います。ネーミングライツではありませんが、個人の方がちょっとでも参加したという形でのプロジェクトができるとよいと思います。

(小坂委員)

友の会に関連しますが、先日ある博物館の友の会に入ろうかと思いパンフレットを取り寄せましたが、月に2～3回行くと仮定して計算したところ、個別に払ったほうが得だということでやめました。その発想は損か得かだけです。美術館に行って観たいものを観ることが目的なので、そこに余計なお金を美術館にかけるということにはつながらない面があります。一方、クラウドファンディングでプロジェクトを立ち上げる場合、共感が得られれば集まるといふ事例が多いように思います。例えば、触れる美術作品についても、どのくらい美術品に触れてみたいという気持ちに飢えているか、そして、美術品に触ったことでどういうふうに変化したか、そういう物語によって人を動かしていくことが大切になってきます。まだ新しい美術館はできてオープンしていないので、何を応援して欲しいと言われているのか一般の方々にはなかなか分かりにくいので、むしろ美術館がオープンし、何を提供しているのか分かった時点で力を入れていくことも必要と思います。

(竹内委員長)

やはり形が見えてきたときに、サポートをしたいと言う方も出てくるかもしれませんが、大事なご意見をいただきました。

(谷委員)

クラウドファンディングといっても具体的なイメージが沸かないと難しいと思い

ます。もう少しシミュレーションをして、画像なり情報をもっと詳しく伝えるような伝達の方法を考えるべきだろうと思います。

ところで、今回どのように作品を選んできたのか、その辺があまり公開されていないような感じがしますが、どうでしょうか。

(竹内委員長)

作家を6グループ選ばれていますが、その経過はどうであったかというご質問ですがいかがでしょうか。

(松本委員)

触れる美術品、あるいは触れる彫刻の展覧会は、ここ数年間、信濃美術館で実施しており、私がこちらに来てからの経験では、評判のいい展覧会です。去年はギャラリープラザ長野、今年はギャラリー82で開催しています。その時の出品作家からこの4名も選ばれていますが、いままで信濃美術館がそういう活動をしてきたことは知られていないかもしれませんが、継続的に行ってきました。その上で学芸員が作家を選び、映像も含めそれぞれ複数名の外部の委員に提示をしつつ、意見をお聞きする中で、今回の人選になりました。

(谷委員)

具体的な展示の機会があって、人選に結びついたということですね。

(樋口委員)

クラウドファンディングはプロジェクトをしっかりと立てて、それにシンパシーを感じてもらえないと、集まらないと思います。長野市では去年、茶臼山の動物園でオランウータンをオリの中で飼っていますが、それを自然のオランウータンが生息しているような森を作って、そこで飼いたいという提案をしたら2千万円集まりました。それはそのプロジェクトに共感していただけたからです。そういう考え方で美術館もやるといいと思います。ふるさと納税に関しましては、個人の寄付は特典が多過ぎる印象で、開館後もある程度集めるということならばこんなにやる必要はなく、割り切った方がよいと思います。ふるさと納税を使えば個人の負担は2千円で一定額の寄付ができるというスキームですから、例えば銘板がいいかどうかはいろいろな議論があるのだと思いますが、特典は一点か二点に絞って提供する形でないと続かないと思います。

それからファンクラブの話がありました。これも実は美術とは違いますが、長野市の文化芸術振興財団でもやっていますけれども、何千人という単位で登録のファンが集まっているので、そこには全部情報発信をしています。自主公演のお知らせをし、できるだけリピーターを増やすような形で、この人たちには入場料という形で財政的に支援させてもらうだとか、きちんと整理し、ターゲットを絞ってば集めていくという形にすれば、ある程度集まるという気がしますので、しっかり整

理してもらいたいと思います。

(橋本委員)

寄付金の使途についてはやや静的な感じを受けます。すみだ北斎美術館のことを考えても、寄付者の方にはその後もいろいろご援助をいただいています。美術館を中心とした様々なイベントに協力者としてお名前を出すなど、常に動いている中で、貢献されることを望まれているのではないのかなという気持ちを強く感じています。ですから銘板もそうですが、静的、固定的なものとして10年位はいいと思いますが、その後の活動への協力のあり方を考えた場合にどうかという感じがします。来館者も、はじめは寄付者の名前を関心をもってよく見ます。しかし、10年も経つとそういう感慨深さも薄らいでいくので、そういう意味では銘板のあり方も考えなおさなければなりません。友の会は信濃美術館がクローズする時にいろいろな資料を見ました。やはり開館の頃は、友の会に支えられていました。ところがありがた迷惑的な、やや独走しがちなところがあったので廃止したという経緯でしたので、友の会を作るならば十分検討する必要があります。

(山浦委員)

今日は寄付を中心に考えていますが、とにかく大勢の方に来ていただく、来てもらうことを中心に、会員だとか友の会だとか名称は兎も角、そういう制度を作るとするならば年会費を千円か二千元、一万元は高すぎると思いますが、インターネットで定期的にイベント情報を送るとかすることで、何となくつながって、遠くからも来てくれるかなということにもなりますので、入場料を払ってまで来てもらうという考え方を一番に考えないといけないと思います。今回は2千万円集めるということですが、県職員一人が一万元出せば集まってしまいますが、こういうのは一過性になってしまいます。

(竹内委員長)

立ち上げと同時に運営上も有機的に結び付かないと、長続きもしないし、今日は寄付の問題が出ましたけれども、これは運営の問題にもなりますので、総合的にご検討いただきたいと思います。

(野原委員)

寄付の話が先行していて、どういう美術館ができるのか分からないのに、例えば商品がまだ出来ていないのに、先にお金を出してもらうというのは我々の常識からはどうかという感じがします。ですから寄付のタイミングもやはり美術館(商品)が出来上がったところでどう評価し、どう価値が出てというところに力を入れることが先決で、タイムラグがあるように感じます。つまりまずは美術館(商品)を見してから評価していただくというふうにしなないといけないと思います。樋口委員の言

われたオランウータンの話は目に見えて目的や形が分かるためお金が集まるわけで、何ができるのか分からないのにお金を出すというのは早すぎる気がします。

(竹内委員長)

先ほども出ましたが、キックオフ・フォーラムはイベントのあり方から言うと、美術館ができる前に一種のプレイベントとしてやるものです。これは今まであまり例がなかったことだと私は思いますが、プレイベントを通じて一步一步館が見えるようにする、それが大事なのかなと思いました。これは今日の会議だけでなく、具体化していかないと何もできないし、寄付も集まらないと思うので、是非見えるような形にしてやっていただきたいです。

(渡辺委員)

話しを伺って待望の美術館ができるわけで、協力したいと思っている人も大勢います。それが触れる美術作品なのか、美術館に行って素晴らしい時間を過ごしたとか、運営上も楽しかったとか、気持ちよかったとか、新しい美術館を応援するとか、友の会なのか、もう少し広く使えるようにしないといけないと思います。寄付の特典も気持ちを表すものなので、こんなに要らないと思います。待望の新美術館ができる、それに我々が協力したということで済むのではないのでしょうか。あまり事務的にいろいろ書くよりは、幅広く聞いて、もうひと研究して欲しいと思います。

(佐野委員)

今回の制作に映像作品が入っていますが、これから充実していくという方向性かと思います。ユーフラテスは全国的なファンもいますので、新しい館のキャラクターとして使えると思います。また、自分たちがここに来た時にそのキャラクターと一緒に写真が撮れる、そういうものだってうれしいです。映像コンテンツを作るのであれば映像向けのお返しもあった方がよいと思います。

(谷委員)

ちょっと細かな話ですが、映像を映すプロジェクターは買い取りでしょうか、リースでしょうか。

(日向室長)

買い取りです。

(谷委員)

そうするとシステムはどんどん陳腐化しますので、数年のうちにほとんど使いものにならなくなってしまうということも考えられます。初期投資だけで機材を賄おうとしますと時代についていけないことになります。スクリーンの使い方も6台のプロジェクターを天井から吊り下げる形式ですが、システムの動かし方は思うほど

簡単ではありません。L字のスクリーンも固定化しやすい感じがします。マルチスクリーンに映し出す時、プロジェクターが固定で、L字型スクリーンだと固定的になります。

(竹内委員長)

ご意見ありがとうございました。他にございませんか。それでは、次の議題に進みます。(2) 運営費の検討状況について、事務局から説明をお願いします。

(2) 運営費の検討状況について

(日向室長)

資料2により説明

- ・ 近年開館した他県の状況について説明
- ・ 信濃美術館の状況については、12月中に次回委員会を開催しお示ししたい。

(山浦委員)

新しい美術館の面積は前の何倍になりますか。

(日向室長)

延床面積が2.5倍になります。

(山浦委員)

建設に100億円かけて、さらに運営費を県が持ち出すことが気がかりです。観覧料や貸館料は最低1億5千万円に上げるよう努力すべきではないかと思います。そうでないとどんどん予算が削られて美術館自体の存続に問題が出てきます。全て自主財源で賄うことはできませんけれども、自主財源をいかに増やすかということを検討すべきでないかと思います。企画展は、大勢来ていただければ儲かるかもしれませんが、来なければ大きな損をすることになります。会場を貸すだけならばリスクは少なくなりますが、あの場所で企画展をやってくれるかどうか、なかなか難しいのではないのでしょうか。

(小坂委員)

近年開館した5館平均の入館者数と展覧会に入った人の差は、美術館に遊びに来たけど展覧会は見なかったということですか。

(日向室長)

いわゆる無料ゾーンに来ている方で、有料のエリアには入っていない方です。

(竹内委員長)

最近、無料で美術館に来ていただく企画が非常に多くなっています。これは今までにないことで、一部有料、一部無料ということで、有料の底上げにもなるという意味で、一種の流行とも言えます。資料の数字はそれを反映していると思います。

(小坂委員)

無料でも美術館に来ていただけることは意味があるので、それが有料入場者数につながっていけるのかが一番よいことです。そうでなくても折角美術館に来た人を何か売り上げに結びつけることまで考えた方がよいと思います。

(谷委員)

立地条件に左右される問題でもあり、もちろん企画内容にもよりますが、単純にたとえば5館平均の数値を見ても、感觸的には入っているなという印象です。有料ゾーンだけでなく無料ゾーンの活用の仕方については、先日、金沢21世紀美術館に行ってきましたが、今でも人で溢れかえっています。年間100万人以上入っていますが、その半分近くは無料ゾーンです。立地上、高校生がバス待ちの間に遊んでいることも反映しています。全ての入館者数を購買に結びつけるという発想ではなく、そこに人が集まる仕掛けを作ったことが大事で、そういう意味では無料ゾーンが少ないにも関わらず、東京の美術館は圧倒的にそういう性格を持っており人が集まり易いという状況を備えています。

(山浦委員)

ところで、今長野県で一番入っているのはどの美術館でしょうか。

(橋本委員)

私の知る限り、信濃美術館が一番だと思います。

(竹内委員長)

特に、東山魁夷館ができてからは断トツで一番です。

(橋本委員)

この平均値はアクセスがかなり違っています。信濃美術館の最大の特徴は東山魁夷館があることで、データを取ると3分の2は県外からの来館者で、もし40万人を目途とするならば東山魁夷館との関連を考えないといけません。他の美術館と同じように考えるべきでなく、要素がかなり違いプラスの要因になっているのでその辺を配慮した方がよいと思います。例えば、東山魁夷館との共通券を安くすることも大事ではないかと思います。東山魁夷館に行ったらついでに本館にも行くような捉

え方も必要ではないかと思います。新しい美術館は前の美術館とは魅力が全く違いますが、今までの経験上、そのように思います。

(松本委員)

この議題では必ず金沢 21 世紀美術館の話が出てくるわけで、毎年 100 万人が訪れ、有料の入場者はだいたい 30 万人です。そうすると 70 万人は、美術館には行きたいが、別に作品は見なくていいという人たちで、皮肉な数字を突き付けられているわけです。新しい美術館では 1 階の無料ゾーンに 13m と 14m の映像を展示したり、2 階のギャラリーにタッチアートを設置したりするというのは、美術を観たいわけではないが兎に角行ってみたという人を、お金を払っていただいて何とかギャラリーに誘導できないかということが理由の一つです。また、善光寺まで来ている方にもまずは来てもらえるよう、そして来てもらったからには、お金を払って入館していただけるような誘導策をいかに作っていくか考えているところです。

(谷委員)

金沢の場合、リピーターで稼げるということで、こういう形になっています。特にレアンドロ・エルリッヒの《スイミング・プール》のエリアはいつ行っても人が入っていて、海外からの観光客も多いです。

(松本委員)

無料ゾーンからプールを見ることができますが、下から見るにはチケットを買わなければいけないようになっていて、考えられています。

(樋口委員)

金沢 21 世紀美術館の近くには県立美術館があり、それは本格的な作品を所蔵している美術館なので、同じものを市が作る必要がないため、現代作品を収集することで性格が全く異なっています。また、金沢は海外旅行者が多いので、観光客も多くなっているのだと思います。橋本委員から話がありましたが、せっかく東山魁夷館があるので、はっきりとしたコンセプトを出していかないといけないと思います。今までの信濃美術館の延長線上では、開館年に大勢来ても翌年半減することにもなりかねません。金沢が見事だったのは、こういう美術館を目指すのだということを実際に続けていることがすごいので、そういうところを検討していただきたいです。

(竹内委員長)

これは美術館経営の問題でなかなか難しい面もありますが、経験則で言うと、仮に 1 年間で 20 万人来るということになりますと、かなり努力しないと 15～16 万人の方にお金を払って展示室で観てもらおうことはできないと思います。また、開

館したばかりの時は行ってみようという人もいますが、それ以降の運営が課題になります。近くに善光寺がある、東山魁夷館がある、このように他の美術館とは条件が違いますが、普通の努力では難しく、いろいろなことをやってみないと達成できないと思います。

(福島委員)

佐野委員が言われたように、寄付者のプレートに自分の名前があれば誘って行くようになると思います。寄付を募るのはいいのですが、入場料が割引になるだとか、そういうことはあまりなくてもよいと思います。寄付者には感謝が伝わればそれで十分だと思います。寄付を集めることはたいへんですが、内容を分かっていたければ寄付していただけると思うので、分かり易く説明していただきたいです。

(竹内委員長)

運営費全体の問題は、今回は頭出しですので、次回も引き続き協議したいと思います。

(3) 報告事項

(竹内委員長)

次に、(3) 報告事項について、説明をお願いします。

最初に、東山魁夷館リニューアルオープンイベントについてお願いします。

(日向信濃美術館整備室長)

口頭により説明

- ・東山魁夷館の改修工事は総額9億5千万円で完了
- ・10月5日のリニューアルオープンに向け準備中

(松本委員)

資料3-1により説明

- ・10月4日にセレモニーを行い、10月5日からオープン

(竹内委員長)

ありがとうございました。ただいま、説明がありましたが、ご質問などありましたらお願いします。

(竹内委員長)

次に、信濃美術館建設工事の進捗状況について、説明をお願いします。

(塩入施設課長)

資料3-2により説明

(竹内委員長)

ありがとうございました。ただいま、説明がありましたが、ご質問などありましたらお願いします。

(竹内委員長)

その他、全体を通じて何かありますでしょうか。

(4) その他

(竹内委員長)

それでは次に、(4) その他について、事務局からお願いします。

(細野課長補佐)

次回の委員会の開催は12月頃を予定しています。

(竹内委員長)

本日本日予定された議題は以上のとおりです。円滑な議事進行にご協力いただきまして誠にありがとうございました。

(細野課長補佐)

竹内委員長、ありがとうございました。

本日の議事内容は、後日、各委員の皆様方に発言内容を確認していただいた上で、県のホームページに掲載させていただきますので、よろしくをお願いします。

5 閉 会

(細野課長補佐)

以上をもちまして、第7回信濃美術館整備委員会を閉会します。

皆様、ありがとうございました。

以上